

トンボ池の湿地環境の再生

外来魚調査を実施



造成池で外来魚類の生息状況調査を実施

木曾三川の川づくりについて、地域住民の方々と行政の情報共有を目的にした「第3回木曾川ふれあいセミナー」が3月14日に開催され、トンボ天国の現地見学会が行われました。

トンボ天国は新境川の流れが変わり、かつての川が池として点在する地域の総称です。そこには、ベニイトンボを始めとする貴重なトンボ類や動植物が確認されています。近年「外来生物の侵入と生物相の変化」「トンボ池の干上がり」「水質の悪化」から昭和63年に38種のトンボが確認された以降、年々減少しています。

3月15日から17日にかけて、ヤゴ・トンボを捕食する外来魚類の生息状況調査をトンボ池などで実施し、特定外来生物のブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）や要注意外来生物のカムルチー（雷魚）の3種類延べ112匹を採捕しました。

今後トンボ池の再生に向け、学識経験者・地域住民・国土交通省木曾川上流河川事務所・笠松町が連携して検討していきます。

カメラの眼

まちの出来事



「わたしたちのまち笠松」を読んでください

笠松小学校6年生が作成

3月18日、笠松小学校6年生が作成した「わたしたちのまち笠松」12冊が笠松町の公共施設に寄贈されました。

この冊子は、6年生が1年間、総合的な学習の時間で学んだ笠松の文化財・歴史・遺跡などをまとめたものです。

笠松小学校校区には、鮎鮎街道、笠松陣屋・笠松県庁跡、笠松港、大名行列、神社仏閣、保護樹など多くの文化財、史跡・天然記念物などがあります。

児童たちはこれらについて、グループ毎に調査や研究をしました。冊子は写真や手書きのイラストもた

くさんあり、読みやすく工夫され、児童たちの勉強の成果がよく表されています。

冊子は、役場情報コーナー、歴史民俗資料館、中央公民館、ふらっと笠松、福祉会館などで読むことができます。



ふらっと笠松に冊子を贈る児童たち

ポニーが笠松みなと公園を散歩

とってもかわいいウイー



初めて身近に馬とふれあう小学生たち

桜も満開で見ごろの4月6日、笠松みなと公園に突然真っ白なポニーが現れました。

ポニーのウイーに乗って散歩を楽しんでいたのは、塚本幸雄さんで、笠松競馬場で日本一長寿のハクリュウボーイに乗馬して、サラブレッドを誘導しています。

競馬が開催していない日には、ウイーと一緒にみなと公園をよく散歩しているそうです。「馬の優しさやかわいさなどの魅力を身近に感じて欲しい」と話されました。

この日も春休みの小学生や家族連れがポニーを見つけると、さっそく近づいてきて、馬の体に触れたり、馬のことをいろいろと質問をしていました。